

は～とダイアリーは様々な医療スタッフが 支える心不全管理を目標にしています。



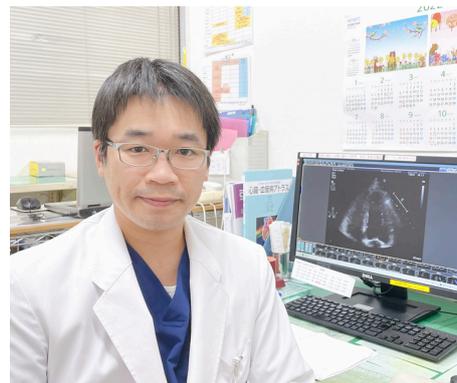
は～とダイアリーとは

わが国が抱える心不全について、症例の高齢化と再入院が大きな課題となっています。

当院の多職種チームでは、心不全患者様の疾患教育はなるべく入院中にすべきだという考えがありました。また、様々な報告で心不全患者様のセルフモニタリングが予後改善効果をもたらすことも知られているため、当院の多職種連携がより効率的に稼働するために、統一した教育資料が必要だと考えていました。2019年にハートチームが関わった症例で重症の心不全の状態でありながらもご自身の夢をかなえられた方がいらっしゃいました。患者本人・家人・スタッフが一丸となって達成された出来事でした。その根底にあったのは状態把握を共通して行える心不全手帳の存在でした。この経験を通して私たちは「もっと患者様に寄り添いたい」そう思うようになりました。そしてセルフモニタリング機能を含んだ心不全手帳である「まいにちは～とダイアリー」を作成し、2021年6月から運用しています。入院された方は退院までにダイアリー内のコンテンツをひとつひとつ多職種から説明を受けることができます。その中で同じことを何度か耳にすることで理解が深まると考えています。また絵図を多くしたことで外来では聞き取りにくかった検査の内容や結果もわかりやすくなるようにしています。

その結果としてダイアリーを用いて管理している方々の再入院率は全国平均を下回り多くの症例が自宅での時間を長く過ごせていることに寄与していると考えます。

今後このは～とダイアリーとともに「地域の方の心臓を一緒に診ていく」という気持ちで取り組んでまいります。



循環器内科部長・救急内科部長

椎野 憲二

日本内科学会総合内科専門医
日本循環器病学会認定循環器専門医
日本超音波医学会専門医
日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士
名古屋大学医学部臨床教授

導入症例

退院後もしばらく当院で経過をフォローする症例

心疾患に立ち向かう気持ちのある症例

入院時に手帳への記録ができる症例(また家人の協力の下、記録が継続できる症例)

工夫していること

説明する部署ごとに色を分けています。

入院中に説明するため、「日付」「サイン」の欄を作成しました。

EFやBNPは入院時に一緒に記載していただくことで、値を実感してもらっています。

血圧・体重の記載だけでなく、水分摂取量や症状なども記載できるようにしてあります。

目次	※医療職記録欄 日付 サイン
は～とダイアリーの使い方	1
心不全とは	4
虚血性心疾患とは	11
不整脈とは	14
心臓病の治療	
生活習慣の改善	17
薬物治療	18
お薬以外の治療	24
心臓リハビリテーション	31
運動療法	32
運動耐容能(体力)の検査	39
フレイル・サルコペニア	41
日常生活での注意点	45
心臓病の食事	52
外来継続療養支援	61
社会保障制度	62
記録	67

<心エコー>
心臓の動きをみたり、心不全の原因を調べます。

壁が分厚くなっていないか 弁の間隔はスムーズか

心臓がしっかりと動いているか

心臓を様々な角度から観察していきます。
*心臓の収縮率のことをEFといいますが、50%以下は動きが低下しているといわれています(正常値55~65%)。

初回 EF (%) (年 月 日 の値)

*次回からは p.65 に記載できます。

毎日記録 記入例

2021年	日	月	火	水	木	金	土
月/日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7
体重(kg)	58.0	58.0	57.8				
水分(ml)	900	1000	950				
血圧(mmHg)	朝 120/70	112/82	119/78	/	/	/	/
	夕 118/72	114/71	120/65	/	/	/	/
脈拍(回/分)	朝/夕 72/70	70/68	72/69	/	/	/	/
自覚症状	息切れ	有	無	有	無	有	無
	むくみ	有	無	有	無	有	無
運動	○か×で記入	×	○	○			
服薬チェック	朝	☑	☑	☑	☐	☐	☐
	昼	☑	☐	☑	☐	☐	☐
	夕	☑	☑	☑	☐	☐	☐
メモ欄							